

アイザワ週報

第 2468 号 2022 年 1 月 11 日

審査番号・220104-B1

目次

[今週号は 2021 年 12 月 30 日時点の情報を基に作成しています]

投資コラム	： 最近の経済指標	1
日本株銘柄情報	： NexTone (7094)	2
日本株銘柄情報	： MacbeePlanet (7095)	3

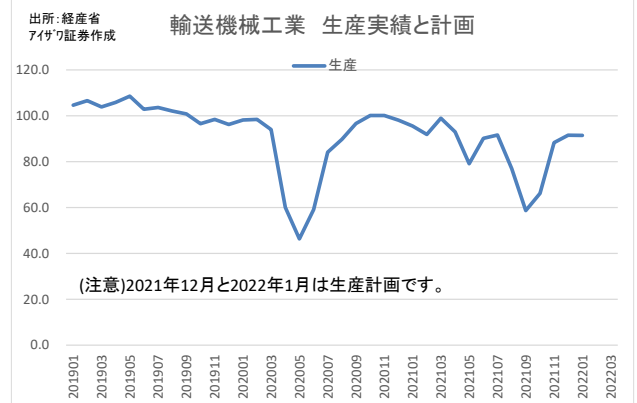
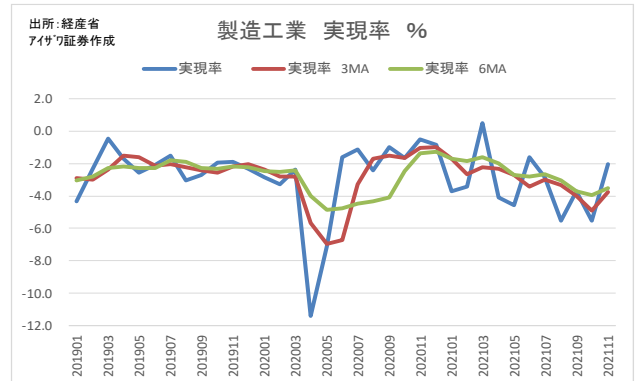
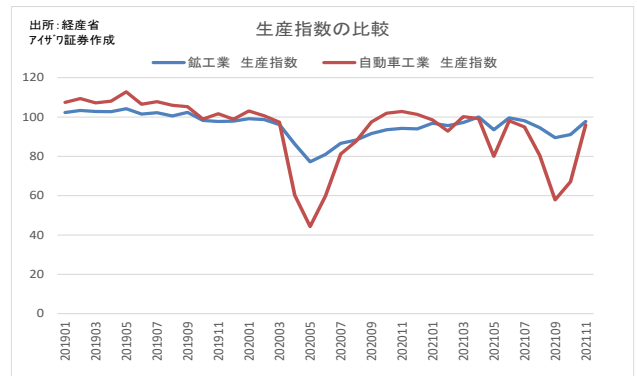
最近の経済指標

笹木 義次

2021 年 11 月の鉱工業の生産指数は 97.7 となり前月比で 7.2% の大幅な増加となりました。自動車工業の生産指数が前月比で 43.1% の増加となった事が寄与しました。自動車工業の鉱工業生産指数に対する増加寄与度は 4.9% です。自動車工業の生産増加の寄与を除くと、前月比で 2.3% の増加となります。経産省によれば、自動車工業の生産増加は、部材供給不足の影響が緩和されたためとしています。

12 月と 1 月の生産計画は増産計画になっています。しかし、計画の実現率が継続してマイナスとなっている事から、実際の生産は計画を下回ると考えています。11 月の生産の回復に寄与した自動車工業が含まれる輸送機械工業の生産計画は 12 月が前月比で 3.6% 増加、1 月は前月比 0.1% 減とほぼ横ばいとなっています。11 月には生産が回復しましたが、先行きは回復一服となっています。

こうした事から、このまま順調に鉱工業の生産指数が回復するとは見ていません。先行きの生産回復には不確実性があると考えています。



NexTone (7094)

笹木 義次

株価指標

株価 (2021/12/30)	4,600.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	447 億円

音楽著作権の管理

NexTone は、音楽著作権の管理を行っています。著作権等管理事業、キャスティング事業、その他と 3 つの事業セグメントから構成されています。著作権等管理事業は、著作権管理業務とデジタルコンテンツディストリビューション事業(以下 DD 業務と略称します)に分かれています。

利用促進に取り組む

著作権管理業務は、音楽著作権の利用許諾と、音楽著作権の使用料の徴収と音楽著作権の所有者に対する分配を行っています。

DD 業務は、音源や映像などの音楽コンテンツを、国内外の音楽配信プラットフォーム向けに提供しています。キャスティング事業は、主にライブビューイングやライブ配信のサポートを行っています。DD 業務とキャスティング事業は、音楽著作権の利用促進という役割を担っています。

今上半期は増益

NexTone の 2022 年 3 月期上半期の業績は、売上高が 34 億 47 百万円と前年同期比で 30.4%の増収に、営業利益は 2 億 98 百万円と前年同期比で 37.4%の増益となりました。

著作権管理業務では、インタラクティブ配信の取扱高が増加しました。DD 業務では、ゲームやアニメに関連する音楽コンテンツが順調でした。DD 業務では、エンドユーザーがグロ

<業績の推移>

連結	決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
	2020/3	4,345	305	295	191	23.6	0.0
	2021/3	6,122	539	540	376	40.7	0.0
	2022/3計	7,970	730	730	460	49.7	0.0

単位: 百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

<投資指標>

連結	指標	数値
	今期予想PER	97.1 倍
	PBR	15.82 倍
	予想配当利回り	0.00 %

ーバルに存在しているからです。

下期偏重の今期計画

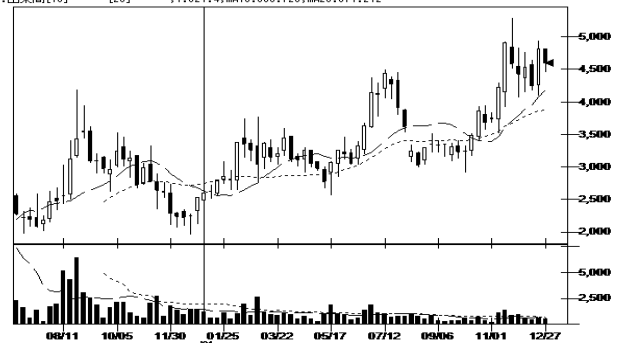
NexTone の 2022 年 3 月期の業績は、売上高が 79 億 70 百万円と前年比で 30.2%の増収に、営業利益は 7 億 30 百万円と前年比で 35.3%の増益を計画しています。

今期は、コロナ禍の影響等により新譜リリースが遅れる事から、下期偏重の計画となっています。2022 年 3 月期上半期の進捗率は、ほぼ前年同期並みの水準です。進捗率から見ると、今期の会社計画はほぼ達成可能と筆者は見えています。

高い参入障壁

著作権管理業務は参入障壁の高い事業です。著作権の利用に関するデータの管理や、利用料の徴収や分配に関わる実務能力が必要とされるからです。また NexTone の業績にとって重要な指標である管理楽曲数や取扱原盤が順調に増加しています。以上の事から、筆者は投資対象として評価しています。

E7094#0 NexTone 東証 1部 20/6/22~21/12/27
 日付: 21/12/30 始: 4575 高: 4686 安: 4545 現値: 4600 -45 出来高: 63.7
 前: 09/25 増: 移動平均 [5] [10] [20] [60] [120] [250] [500] [1000] [2000] [5000] [10000]
 S1: 出来高 [10] [20] [50] [100] [200] [500] [1000] [2000] [5000] [10000] [20000] [50000] [100000] [200000] [500000] [1000000]



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

MacbeePlanet (7095)

笹木 義次

株価指標

株価 (2021/12/30)	6,400.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	207 億円

LTV マーケティングで先行

Macbee Planet は LTV マーケティングに関連する一連のサービスを顧客企業に提供しています。高い LTV が見込めるユーザーの集客、成約、解約防止を支援するサービスを行っています。LTV とは顧客生涯価値の事で、1 人の顧客が一定期間を通じて企業にもたらす収益の事です。LTV が人口に膾炙する前から、MacbeePlanet は先行して LTV に焦点を絞っている事に注目しています。

MacbeePlanet は、アナリティックコンサルティング事業(以下 AC 事業と略称します)とマーケティングテクノロジー事業(以下 MT 事業と略称します)から構成されています。AC 事業は、高い LTV が見込めるエンドユーザーの集客を支援するサービスを行っています。MC 事業は、成約促進、解約率の減少、AI による広告配信の 3 つのサービスから構成されています。

投資対象として評価

LTV マーケティングに対する需要は増加する事が見込まれます。既存顧客から継続的に収益を獲得するサブスクリプション型収益モデルを志向する企業が増加している事が背景にあるからです。Macbee Planet は、LTV マーケティングに関して先行して取り組んでいる事から、先行優位性を持っています。LTV マーケティングの先行優位性等を活かして、今後増加が予想される LTV マーケティング需要

<業績の推移>

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2020/4	6,466	374	364	263	98.7	0.0
2021/4	9,779	785	785	547	173.2	0.0
2022/4計	12,280	1,060	1,060	720	224.9	0.0

単位: 百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

<投資指標>

連結	
今期予想PER	28.8 倍
PBR	9.00 倍
予想配当利回り	0.00 %

を取り込む事で、Macbee Planet の成長が見込める事が、投資対象として評価する要因です。

今期は増益計画

Macbee Planet の 2022 年 4 月期上半期の業績は、売上高が 73 億 94 百万円と前年同期比で 80.7%の増収に、営業利益は 6 億 38 百万円と前年同期比で 90.2%の増益となりました。AC 事業では、第 1 四半期に特定の証券会社の大型キャンペーンを受注するなど、特需の効果もありました。Macbee Planet では、2022 年 4 月期の業績は、売上高が 122 億 80 百万円と前年比で 25.6%の増収を、営業利益は 10 億 60 百万円と前年比で 34.9%の増益を計画しています。

筆者は Macbee Planet の 2022 年 4 月期の業績は、売上高が 127 億円と前年比で 29.9%の増収を、営業利益は 11 億 50 百万円と前年比で 46.5%の増益になると予測しています。上半期の順調な進捗率等から、会社計画を上回ると見えています。

7095 MacbeeP 東証 週足 20/6/22~21/12/27
 日付:21/12/30 始:2600 高:8300 安:8200 現値:6400 -150 出来高:78.3
 W:のり足:単純移動平均[18] ----- [26] MA13:8180.77 MA26:8398.85
 S1:出来高[13] ----- [28] V:348.2 MA13:539.446 MA26:475.100



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa